

かわさきTMO通信

<毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

特別号 No.1

●回遊性を考える ～街に回遊性を生み出すもの～

- ・魅力的なスポットの集積
- ・快適な公共空間
- ・新しい交通システム

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：副会頭 深堀和子
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2012年3月13日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-540-3904
 FAX：044-540-3900
 Email：sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

■回遊性を考える

「回遊性が良い」とは、来街者の側からみれば、街を楽しく快適に歩けることや移動利便性が良いことであり、商業者の側からみれば、お客様が街を広く巡って、ゆっくりと滞在して下さることでしょう。都市間競争が激しい現在、街の魅力を語る上で重要な視点といえると思います。今回は、街に回遊性を生み出す要素について考えるところに、TMOが回遊性向上を目指して行っている取り組みについても紹介させて頂きたいと思えます。

◇街に回遊性を生み出すもの

①魅力的なスポットの集積

先日の新聞に、「銀座の西五番街通りが「シヨコラストリート」と呼ばれ始めている。」との記事がありました。ベルギーやフランスの有名なチョコレートブランドの路面店が次々と出店して、銀座エリアでは自分好みのチョコレート探しが楽しめることになりました。

このような〇〇激戦区と呼ばれるエリアでは、個々のお店は互いに競合する一方で、集積効果によってマスコミに取り上げられたり、口コミにも乗ったたりして情報が発信され、あたかも

も連携して集客しているかのような現象が起きます。



チョコレートショップが軒を並べる銀座 西五番街

そして、チョコレートショップ巡りに訪れたお客様が街を回遊することにより、波及効果はチョコレートショップ以外にも及ぶでしょう。

やはり、街に集客力と回遊性の好循環を生み出す第一の要素は、魅力的なお店やスポットの集積だと思えます。

②快適な公共空間

次に、街を構成する要素として、スポットを繋ぐ道路や広場などの公共空間があります。

公共空間の快適性は、来街者がその街に魅力を感じる上で大きな条件に

なるでしょう。ただ、公共空間は役所や警察の管理下にあるため、個々のお店のように、商店主の自助努力だけで変えることはできません。

そして、公共空間においては、交通安全と治安維持が最も大切であることから、なにかと制約も多かったのですが、近年になって、昔のような生活の場、交流の場としての使い方が見直されるようになってきました。

そこで、かわさきTMO回遊性向上部会（小林一三部長）では、商業者の側からも、川崎駅周辺の公共空間をより楽しく、快適なものにしていくと、現在、オープンカフェプロジェクトを企画しています。

オープンカフェは、ヨーロッパでよく見られ、国内でも横浜の日本大通りで定着していますが、街なかの休憩・交流スポットであると同時に、景観・賑わい感を創出し、人々の視線を街なかに投げかけることによって治安向上の役目も果たしています。

昨年度、かわさきTMOが主催した公開ワークショップで、講師の倉田直道先生（工学院大学工学部教授）は、「街の魅力を考えるとき、これからは人々が集まり交流する場としての機能を取

り戻すことが大切だ。また、特に、低層階や公共空間での活動に、その街の姿が滲み出る。」と述べられ、具体的な取り組み例として、オープンカフェを紹介して下さいました。



横浜 日本大通りのオープンカフェ

同時に「継続的な運営を実現する上では、地元へ責任を持って管理できる組織が存在することが条件である。」とTMOの役割も示唆されました。公共空間での活動に対する許認可に以前よりも柔軟性が出てきたとはいえ、当然のことながら、公共性・公益性や地元の方々の合意形成、また交通への影響に配慮することが前提であり、出店者の間で守るべきルールづくりや、

行政機関との折衝役をTMOが担う必要があるでしょう。

公共空間でのオープンカフェは、地域にとっても、出店者にとっても、TMOにとっても、初めての試みになります。社会実験としてスタートし、課題を洗い出した上で、是非、本格営業へと繋げていきたいと思っています。

川崎の街でオープンカフェが実現すれば、太陽や星空の下で、バスカートの演奏をBGMに、コーヒーやビールを飲めるかもしれません。街ゆく人々に、新しい時間の過ごし方を提供することでしょう。

③新しい交通システム

同部会では、回遊性を高めるもうひとつの要素として、歩行者の移動をサポートする新しい交通システムの検討を行っています。

川崎駅周辺の交通上の課題として、自転車問題がまず思い浮かびますが、その他にも、西口駅前には今後大規模なオフィスビルが立地することから、駅東西の移動利便性がますます求められるでしょう。かたや、富士見周辺地区では公園や市民利用施設の再整備が進み、このエリアとの連携強化も駅周辺の活性化に向けた一つの戦略

です。そして、全国共通の社会的背景として高齢化の進行があり、歩行者の移動をサポートする新しいシステムの必要性は一層高まる状況にあるといえます。

昨年度、かわさきTMOが主催した公開シンポジウムで、講師の中村文彦先生(横浜国立大学大学院工学研究員教授)は、「モビリティ・デザインで街を魅力的にする」と題した講演の中で、米コロラド州都デンパーの事例を紹介されました。

都心部の南北にそれぞれ位置するバスターミナル間(約1.5km)がトランジットモール(公共交通のみ進入が許可される歩行者空間)化され、フリー・モールライドと呼ばれる無料のバスで結ばれる仕掛けとなっており、フリー・モールライドは、交差点の手前ごとに停車し、横方向のエレベーターのように利用されているとの事です。そして先生は、「この事例のポイントは、単に無料のバスが走っている点ではなく、“沿道の恩恵を受ける人々によって運行費を負担する”“運賃箱を置く必要がなくなる”ことにより、車両レイアウトの自由度が飛躍的に高くなる」といった複数異種の話繋ぎ

ぎ合わせて総合的に課題解決している点に注目して欲しい。」と述べられ、交通システムは都市の目標を支える手段であることを強調されました。



フリー・モールライド米コロラド州

新しい交通システムの計画や運営は商業者やTMOだけで担えるものではありません。また、多様な課題に向き合い、総合的に解決していくには、商業者のみならず、地元住民・企業、来街者、行政機関、交通事業者など多様な主体間の意見集約と調整が必要です。今後TMOには、提案作りとともに、連携構築の役割が一層求められると思います。

以上、TMOが考える回遊性の要素と取り組みについて述べさせて頂きました。(専門委員 荒木淳)